
クリスマスの出来事

芥子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クリスマスの出来事

【NZコード】

N6804C

【作者名】

芥子

【あらすじ】

サンタクロースだなんて想像上の人物そう思われているかもしれないが実際はいるんだよ現実問題俺はサンタなのだから若すぎるといわれるがそんなんだ

ジングルベルジングルベル鈴がなる～

今日は子供が大好きなクリスマスイブ

聖なる夜に赤い服に身を包んだ真っ白なお髭のサンタさんが良いに子にプレゼントを渡す日です

ヒーリーはある隠れ家

サンタにしては若い青年が赤い服に白い大きな袋にプレゼントは詰め込んでいく

その不慣れな手つきだが真剣そのものである

プレゼントを積み込み終わると夜の街へとソリを出した

夜風が冷たいクリスマス新米のサンタは顔を少しづづめながらトナカイを操り前に進んでいく

あまりの寒さにトナカイではなく自分の鼻が真っ赤になりそうだ

新米サンタは寒さと闘つていつもに最初の家にたどり着いた

サンタ達にはとある特別なルールがある

一つは家に出入り自由だということ

プレゼントを渡すと言う大義名分があるとは「これは立派な犯罪だが
警察に通報されることはまずない

何故ならほとんどの大人には姿が見えないが子供はその姿が見える
とされている

しかしそれは昔の話で最近では子供でも姿が見えないらしいのだそ
の大きな理由が子供の大人化らしい

最近妙に大人ぶつた子供が多くなったのが原因だと先輩サンタに聞
いたことがある

家に入ると小学校中学年ぐらいの女の子がすやすやと寝息たてなが
ら寝ている

枕元には水玉の靴下とともに

『ぬいぐるみがほしい』

と可愛らしい書かれた紙切れが置いてあつた

新米サンタは袋からサンタと同じ赤い服を着た熊のぬいぐるみをだ
し靴下の横に置いて帰った

これで朝起きたら女の子は喜ぶだろつか・・・

そんな事を考えていたら

『サンタさん?』

女の子が目が覚ましたのだ、僕は慌てて帰ろつとしたが
『待つてお願いがあるの・・・プレゼントをすべて配り終わつたら
いいからもう一度家にきて』

女の子はそう僕に言つた。詳しい理由はわからないが僕は二つ返事をしそのまま家を出てソリに乗つた

ソリに乗つて冷静に考えてみると少し後悔した

プレゼントの量を考えると配り終えるのは朝方頃だらう

また何故あの女の子がもう一度僕に来て欲しいのか?何か理由があるのかそれともただのワガママなのか

けど約束は破るわけにはいかない、僕の使命は子供に夢を与えることだ

そう思ふと轟きを恐れ子供のいる家に到着する

やはり子供も十人十色でプレゼントがまったく違う

キヤベツ太郎4キロ分

なんでキロでやねん

愛

深すぎますからー。

ドリーム

22世紀まで我慢してね(はあと)

みや田楽

起きたら冷めて不味くなつてゐるよー。

ゲーセンのメダル

もつと良こもの頼も'つかー。

3丁目の喫茶店と土地の権利書

ヤ ザ・・・・・? (、 、 、)

金肉マン消しゴム

古こしれもやも筋つて言ひ乍間違つてゐるー。

酒と女

お前は北斗の拳こ出てへる悪役か!

スパイダーマーン

微妙に言こづりこみー。

やつとすべてのプレゼントを配り終えた。後は女の子の家に戻るだけ

トナカイが全力でソリを引っ張るが思ったよりスピードがない何時間も走り周りヘトヘトになつたのだろう明らかにキツそうだ

『トナカイ・・・君は休め』

僕は寒空のしたただ女の子の家をめざして走った

理由はわからないただ走つた

なんとか夜が明ける前に女の子の家にたどり着いた

息を荒げながら女の子の部屋に入ると男の子と二人で出迎えてくれた

二人とも意外そうな顔で

『本当にいたんだ』

『来てくれたんだ』

二人はほぼ同時にそう発した

男の子は女の子より背が高い、兄妹なんだとなんとなくわかつた

『想像上の生物だと思つてたのにサンタなんて小学校入る前に信じ

るのやめたのにな

生物つて・・・確かにこの年頃になるとサンタなんて想像上のモン
だと思つだらう

そんな事より僕が信じなかつたその理由を聞くと

『妹が生まれてからはプレゼントなんて貰つてなかつたからね一種
の僻みつて奴かな?』

彼は少し卑屈そうに笑つた

『メリークリスマスー』と言いたいところなんだけどもうプレゼント
がないんだよ』

僕がそう言つとあんたに出会えただけでそれでいいと話してくれた。

それでは申し訳なかつたけど、もう帰らなくてはいけないその間
際に

『サンタさんあつがどうあの時詳しい理由を言えなかつたから來
くれなかつたのかと思つた』

女の子がそう言つてきた、僕はちょっと考えて

『僕もなんで來たのかわからぬ、けれども僕の姿が見えるから、
良い子なんだと思つたんだよ』

そして僕は家から出ていくのを一人は見送つてくれた

『来年もよろしくね』

来年もって・・・覚えていたらね

外に出たらトナカイが待つていてくれた

『寒いのに悪かったね、けどこれで仕事も終わったよ来年まで温かいハワイかグアムあたりで過ごそうか』

僕はそう言つと隠れ家までソリで向かつた

冷たい朝方のクリスマス

サンタを信じる人も信じない人も僕の姿が見えない人も見える人も公平にクリスマスはやつてくる

初めてのサンタだったけれどやれてよかつた

メリークリスマス!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6804c/>

クリスマスの出来事

2010年12月23日14時15分発行